

# 学生授業評価結果から見た看護学部生の「学び」の実態

杉田由仁 吉澤千登勢 村松照美  
山梨県立大学 看護学部

## 1. 分析のねらい

本学（看護学部・国際政策学部・人間福祉学部）は、平成 25 年度に、授業評価の実施目的における重点を、これまでの教員の授業力向上（第 1 ステージ）から、学生の学びとその成果検証（第 2 ステージ）へと移し、「授業評価マークシート」の大幅改訂を行った。そこで、看護学部では、学生の「学び」の実態把握の第一歩として、「学習に対する意欲」「授業外学習時間」「到達目標達成度」に関する質問項目の回答結果および「この授業の良かった点や学んだこと」に関する自由記述内容の分析を試みることにした。

## 2. 分析の内容・方法

質問項目に対する評価結果については、全学および他学部の集計結果と比較・対照を行い、看護学部生の「学習に対する意欲」「授業外学習時間」「到達目標達成度」に対する回答傾向の特徴を探る。また、自由記述内容については、授業評価を実施した全 54 科目の内、各学年において「必修」に区分される 27 科目を分析対象とする。分析方法は質的内容分析の手法を用いて、各コメントにラベル（コード）付けを行い、類似の特徴を持つ概念のグループにコードをまとめてカテゴリー化する。カテゴリー化された記述は並行的データ分析の手法により記述の出現数を学年別に集計し、各カテゴリーにおける学年ごとの出現数に差異があるか否かを確認するために  $\chi^2$  検定を適用する。

## 3. 分析の結果

### 3.1 授業に対する意欲

3 学部 5 学科（総合政策、国際コミュニケーション、福祉コミュニティ、人間形成、看護）の「学習に対する意欲」は 4.21 で、看護学部生（4.27）は人間形成学科生（4.32）に次ぎ、授業に対して意欲的に取り組んでいるという結果が示された。また、授業評価アンケートに回答した看護学部生（1～4 年次延べ回答数 4,309）の内、86%の学生が各授業に対して意欲的に取り組んでいることがわかった。

### 3.2 授業外学習時間

本学の学生は全体として授業には意欲的に取り組んでいるが、「授業外学習時間」は 90 分の授業に対して概ね 45 分程度に留まっているという実態が明らかになった。看護学部生の評定平均値（2.57）に基づく試算も 47 分程度の学習時間であった。1 単位あたりの「授業外学習時間」として望ましいと考えられる「2 時間以上」の授業外学習に取り組んでいる学生は 13%であるのに対し、全く授業外学習を行っていない（0 時間）学生が 25%にのぼる実態があることがわかった。

### 3.3 到達目標達成度

到達目標の達成度評価は、3学部全体として24年度前期の3.78よりも1.5ポイント下回る結果(3.63)であった。看護学部生の達成度は、人間形成学科の学生に次ぐ3.75という評価結果であり、昨年度の学部平均(3.77)をわずかに下回る結果となった。この下降傾向の要因として、昨年度同期に比べ「90%以上」と回答した学生の増加(16.7%→20%)が見られる一方で、「80～90%」と回答した学生の減少(50.4%→45%)が考えられる。

### 3.4 授業の良かった点や学んだこと

#### 3.4.1 学びの方法について

「学びの方法」カテゴリーの構成要素として「教員」「外部講師」「メディア教材」「資料」「事例」「体験・演習」「共同学習」が抽出された。対象学年と「学びの方法」に差異があるかどうかを確かめるために関連する構成要素を統合し、 $\chi^2$ 検定を適用した。1年生は「メディア・資料」からの学びに関する記述が有意に少なく、「共同学習」からの学びに関する記述が有意に多く、2年生は「教員・外部講師」からの学びに関する記述が有意に多かった。また、3年生は「メディア・資料」「体験・演習(事例を含む)」からの学びに関する記述が有意に多く、「共同学習」からの学びに関する記述が有意に少ない。4年生は「共同学習」からの学びに関する記述が有意に多く、「教員・外部講師」「体験・演習(事例を含む)」からの学びに関する記述は有意に少ないという結果であった。

#### 3.4.2 学びの内容について

「学びの内容」カテゴリーの構成要素として「知識・理解」「思考・技能・実践」「態度・志向性」が抽出された。 $\chi^2$ 検定の結果、1年生は「知識・理解」に関わる学びの記述が有意に少なく、「思考・技能・実践」「態度・志向性」に関わる学びの記述が有意に多く、2年生は「知識・理解」に関わる学びの記述が有意に多かった。また、3年生は「知識・理解」に関わる学びの記述が多く「思考・技能・実践」に関わる学びの記述は有意に少ない。4年生は「思考・技能・実践」に関わる学びの記述が有意に多く、「知識・理解」に関わる学びの記述は有意に少ないという結果になった。

## 4. 実態から浮かび上がった指導上の課題

分析の結果から、下記1)～6)が看護学部生の「学び」をより充実させるための指導上の課題として確認された。

- 1) 学びの主体である学生の様子や反応を感じ取りながらの授業展開
- 2) 授業外学習「0時間」学生の学習習慣の改善
- 3) 担当科目における「到達目標達成度80～90%」と回答した学生比率の確認
- 4) 学生の学びをより充実させる方法(手だて)に基づく授業改善
- 5) 「思考・技能・実践」の指導を通して「態度・志向性」を高める手だての工夫
- 6) 学びの「内容」と「方法」の関係性を考慮した授業づくり

## 参考文献

J.W. クレスウェル, V.L. プラノ クラーク/大谷順子(訳)(2010) 人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン— 北大路書房, 京都